

〔一〕次の文章を読んで、後の問に答えよ。

なぜ、私たちは衣服を着るのだろうか。ひとつの目的は、身体アの保護のためである。私たちの皮膚は薄く脆もろいので、物理的な衝撃や化学的な毒物から傷つきやすい身体を防御しなければならない。薄い皮膚は環境中の温度変化から影響も受けやすい。寒い外気や低温物から身を守って体温をイジしたり、逆に強すぎる日差しを避け、日焼けや体温の上昇を抑えたりするために、私たちは何かを着る。

しかし服を着るのは、生理的な実用性ばかりからではない。衣服は社会的な役割を象徴する働きがある。たとえば、衣服は、地位、所属、役割、年齢、地域、ジェンダーなどの社会的な位置を、あたかも記号のように表現する。典型的には、軍人、警官、宗教家、郵便配達人などの制服は、彼らの役割と地位を表現している。社会的地位だけではなく、衣服は、宗教、政治、思想を表象する。たとえば、タイにおいて、黄色のシャツは、タクシン派の政治に反対するグループであることを表明し、赤色のシャツは逆に親タクシン派であることを表明している。カンボジアにおいては、黒シャツ、黒ズボンに赤いスカーフはクメール・ルージュの象徴である。人間は、衣服という言語を使ってコミュニケーションしてきた。衣服の表現にも、言語のようにさまざまな語彙があり、規則がある。衣服は人間関係に大きな枠組みを与えているとさえいえる。

社会的役割を表示するものとしての衣服も、じつは身体オの延長である。というのも、さまざまな社会において、一定の変工を加えた身体に社会的役割を表現させているからである。

人体の一定部分に、長期的ないし不可逆的な変形や傷を、意図的に加える習慣を身体変工と呼ぶ。たとえば、コルセット、乳房の変形、入れ墨、割礼、去勢、頭蓋骨の変形、頭蓋骨の穿孔せんこう、抜歯、纏足てんそくなどがあげられる。身体変工は、ジェンダー、階級、成人、服喪、婚姻、刑罰、通過儀礼の終了などの社会的役割や地位を恒久的に自分自身につけるために行われる。現代社会においても、たとえば、化粧、豊胸、脂肪吸引、整形手術、歯列矯正きょうせい、脱毛、育毛、ピアスという形で身体変工は存続している。しかし、それが社会的役割を恒久的に身につける意図をもっている場合はむしろ少なく（軍人の部隊名の入れ墨などの例外はある）、主にファッションや美容、自己表現のために行われる。

化粧は塗り替えられる入れ墨であり、身体変工の意味を引き継いでいる。化粧をする伝統的理由として、美しく見せるため、身だしなみ、異性をひきつけるなどがあるが、それ以外にも、エイセイ、魔^{マジ}よけ、祝祭の表現、共同体のしきたりといった理由がある。化粧は、変更できる入れ墨であり、入れ墨は変更できない化粧である。同じ観点から、被服も脱着可能な身体変工といえる。被服は、第二の表皮であり、取り替え可能な表皮である。表皮も被服もどちらも社会的役割の表現媒体となりうる。

先に論じたように、顔はきわめて個人的で、その人の特性を強く表示する。裸体も同様である。裸の身体は、個人としての来歴、特性、能力を生々しく表現する。衣服は、裸体のもつあらゆる個性を抑制し、生身の身体表現の直截^{ちよくせつ}さを中性化して、社会的役割の記号を覆い被^{かぶ}せる。身体変工と化粧、被服は、身体に一定の社会的役割を表象するという働きにおいて等価である。衣服と化粧は、社会的役割の表現としても身体を代補している。あるいは逆に、身体変工のほうが、衣服や化粧の役割を身体化したものなのかもしれない。身体と衣服の境界は曖昧である。

しかし、以上のような身体保護と社会的役割の象徴だけが、衣服の働きなのではない。一般の人間が着る通常の衣服には、確かに実用性が伴っているが、実用性だけに限って作られ、着用されている服はむしろまれである。また私たちは、仕事時間でないときには、社会的役割を自分の服にもちこまない。任務をとかれた休日にも、軍服姿で遊園地のメリーゴーランドに乗ってはしゃいでいる軍人は、服務違反であるだけではなく、異常ですらある。

人は着飾ることを楽しむために衣服を着る。とくに、ファッション（流行）は、自己の境界の表現としてきわめて豊かである。自分らしさ、個性と呼ばれるものを表現するために衣服を着る人は多いが、それでもその時代の服装のファッションに無関係ではいられない。丁髷^{ちょんまげ}、上下^{かみしも}を自分なりにアレンジして個性を表現することなど、現代社会ではできそうにないし、やろうとする人もいない。

複雑で長い歴史を持つファッションを定義するのは難しい。しかしさしあたり、流行とは、スタイルの共時的模倣であると定義できよう。ファッションとは、衣服なり化粧なりの外見のスタイルを、同時期的に模倣することである。この模倣の伝搬の仕方は、「伝染する」と呼びたくなるような急激な速さで広まることもある。これに対して伝統とは、スタイルを通

時的に模倣することであり、過去の様式を受け入れることである。伝統は、服従や訓練や教育によって人工的に身につけるものである。学校の制服などはこれに当たる。

ジンメルによれば、ファッションは「両価的」である。ファッションは、帰属しているグループの仲間の模倣であるが、同時に、他のグループから自分たちを差異化する。ファッションとは、自分がある差異化されたグループへと同化することである。それは、個性と同調を同時に追求する。

ファッションは、まず過去のスタイルから自らを差異化しようとする。それは、伝統的な服装のスタイルから差異化するだけではなく、つい最近のファッションからも自らを差異化する。また今述べたように、ファッションは、自分たちの集団を他の集団から区別する機能を持つ。ファッションは、年齢や社会階層、ジェンダー、地域などの差異を際立たせる。しかしファッションにおいてもっとも重要なのは、ライフスタイルや価値観の違いを示すことである。ポピュラー音楽のコンサートで、演奏者の服装に類似した服装をした聴衆が集まる。それは、演奏者たちのライフスタイルや価値の模倣であり、自分たちを他の社会集団のライフスタイルや価値から際立たせるためでもある。

ファッションは、グループへの同化だけでなく、帰属しているグループ内で自分個人を差異化するためでもある。似てはいるが微妙に違いのある服装をすることによって、グループの中での個性を示す。制服は伝統への模倣であるが、制服を自分なりに着崩すことがその人の個性の主張となる。同様に、あるカテゴリーに入るファッションのなかで自分なりの個性やアイデンティティを出せる。この差異が、他者から模倣された場合には、新しいスタイルを創出したと評価される。

以上がごく大まかなファッションの特徴である。ところで、ファッションは表面的なものであり、軽佻浮薄（けいちようふはく）なものだと捉える考えが存在する。たとえば、二〇世紀の代表的な人格心理学者であるゴードン・オールポートは、『パーソナリティ』という著作のなかで「ある化粧品品の広告は、ある口紅が、使う人に「パーソナリティ」を与えると主張したりする。この例ではパーソナリティは、皮膚の厚さもないものである」と述べている。オールポートにとってパーソナリティとは、「真にその人であるもの」であり、化粧のような表面的なものにそれが宿るという考え方は軽薄に見えるのであろう。一般的に言えば、ファッションとしての化粧、服飾、髪型、装飾品・装身具、香水などは、自己の本質から真つ先

に切り離されるべきものとして認識されているように思われる。これはなぜだろうか。

それはファッションが、軽薄であるどころか、死と虚無^サを予感させるからである。この死と虚無から目をそらせたいがために、人はファッションを軽薄なものとして遠ざけたいのである。

衣服は社会的役割を象徴するが、ファッションという側面はこの衣服の働きからは区別されねばならない。現実には、ファッションは、衣服の社会的役割と入り交じっている。しかしファッションにおいて特徴的なのは、差異のための差異を生み出すことである。たとえば、あるファッションは、単に昨年のモードとの違いを作るために生み出される。ファッションは、「新しいからよい」「流行っているからよい」のであって、内容は二の次である。差異を生み出すための差異として、ファッションは純粹の遊戯である。遊戯とは、そのこと自体を楽しむものであり、その背後にそれ以上の根拠はなく、必然性のない活動である。ファッションは変化であるが、それは進歩や発展のような目的や価値や意味のある方向性をもった変化ではない。それは変化のための変化であり、変化を楽しむための変化である。このことを山田は、ファッションを女性的な存在のあり方だとしながら、次のように主張する。

だって女はどんな色にもなれるのだから。どんな女にだってなれるのだから。だから女たちは毎日違った《私》になる。
「……」女はすみからすみまで表―面^シなのだ。あなたの眼に映る表面の外に女は決して存在しない。もしあなたが女からドレスを奪い去ったなら、あなたは裸体というもうひとつの表面に出会うでしょう。女からファッションを取り去ったなら、あなたは衣装もろともそっくり女を失ってしまうだけ。

ファッションとは徹底した深みの不在である。というよりも、深みの拒否としての表面である。そこには内―外、上―下、表―深といった区別はない。篤実^シで敬虔^{けいけん}な人物であったオールポートは、自らも気づかずにこれを恐れた。ファッションが暗示するのは、最終的な世界の無根拠性だからである。鷺田が言うように、国家や学校といった権威はファッションを最も忌み嫌う。というのは、ファッションはあらゆる根拠付けを暗に揶揄^{やゆ}するからである。「そのいいかげんさ、いいかえると、

いかなる秩序をも溶解させる、あるいは骨抜きにするそのいきあたりばったりの存在形式が、秩序によりかかる者の神経を逆なでするのだ」。

ファッションは、現在のものを過去のものたらしめる。ファッションは、新しさを生み出すことで、何かに終焉しゆうえんをもたらす。流行は過去からきっぱりと区別される分水嶺ぶんすいれい（ぶんすいれい）に立ち、生き生きとした強烈な現在性の感覚を与える。しかし、つい先ほどまで流行していたものがまたたくまに古びたものへと追い落とされ、みるみる輝きを失う。人びとはこの新旧の交代を目の当たりにして、そこに生と死の素早い交代を感じる。ファッションは死と終末を予感させる。ファッションはあまりに軽薄せなやり方で重厚な生の事実を示す。

ファッションは、変化のための変化を志向することによって、不変フキユウフキユウの価値や目的に疑いをかける。ファッションは進歩せず、ただ変化する。それは方向性も進歩もない純粹の変化である。それはダーウインの言う「進化」である。ある人たちが信じたかと思っている不変の目的、さらには世界の意味を、純粹な変化という概念によって台無しにする。「それは古いよ」というファッションの常套句じょうとうくは、新しいものが登場した、新しい時代へ変わったというそれだけの理由で、以前ものを軽々と否定する。ファッションは、新しさという価値だけによって、すでに存在しているもの全体に「古いもの」という烙印ろういんを押し、突然の死をもたらす。あたかもファッションは、「我が子を食らうサトルヌス」のように、時間そのもののようである。ファッションは、時間そのものであるかのように既存のものを乗り越え、外部へと逸脱すること、ファッションは、じつに目的もなく外へ出ようとする。ファッションとは本質的に逸脱である。外部へと逸脱することで、ファッションは、じつに無邪気に世界全体を否定する。世界がファッションのようになるとくに理由なく次々と変わってしまったという保証はどこにもないからである。その遊戯性によって、ファッションは私たちの価値や目的が、さらには世界そのものが無根拠であることを理解させる。

（河野哲也「ファッションと産まれることの現象学」より）

問一

- 「あたかも」の言い換えとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。
- 1 いわんや
 - 2 おりしも
 - 3 さながら
 - 4 それこそ
 - 5 ひとまず
 - 6 もちろん

問二

- 「典型」の反対を意味する語句として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。
- 1 一般
 - 2 対極
 - 3 例外
 - 4 個性
 - 5 偏狭
 - 6 類型

問三

- 「延長」とあるが、文中でこれと同じ意味で用いられている語句として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。
- 1 代補
 - 2 防御
 - 3 変工
 - 4 保護
 - 5 象徴
 - 6 媒体

問四

- 「習俗」の言い換えとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。
- 1 おもむき
 - 2 できごと
 - 3 とりきめ
 - 4 ならわし
 - 5 ふるまい
 - 6 もよおし

問五

- 「軽佻浮薄」の類義語として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。
- 1 一石二鳥
 - 2 天衣無縫
 - 3 本末転倒
 - 4 喉元思案
 - 5 疑心暗鬼
 - 6 優柔不断

問六

- 「虚無」とあるが、「虚」を用いた語句で**適当でないもの**を次の中から一つ選べ。
- 1 虚心
 - 2 虚仮
 - 3 虚空
 - 4 虚勢
 - 5 虚像
 - 6 虚諾

問七

- 「篤実」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。
- 1 忙しく、実務に徹すること
 - 2 現実的で、冷静なこと
 - 3 情が厚く、真面目なこと

問八

- 4 紳士的で、人徳のあること 5 激しく、情熱的であること 6 繊細で、感受性豊かなこと
- 「分水嶺（ぶんすいれい）」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 8

- 1 今後の糧となる養分 2 分類するための基準 3 物語が収束していく目印
- 4 新しいことが始まる地点 5 ものごとが決まる分かれ目 6 もっとも盛り上がる重要な点

問九

文中で使われている次の「に」から、**性質の異なるもの**を一つ選べ。

- 1 外部に 2 何かに 3 表現にも 4 無邪気に 5 気づかずに 6 遊戯性によって

問十

「イジ」「キョウセイ」「エイセイ」「フキウ」の漢字と、同じ漢字を含むものを、次の中から一つ選べ。 10 13

- | | | | |
|---|------------|--------------|---------------|
| イ | 1 センイ工業 | 2 イチイ的な解 | 3 植生のセンイ |
| 4 | 先輩へのケイイ | 5 結論に至ったケイイ | 6 従イチイに任じられる |
| キ | 1 キョウアクな犯行 | 2 クツキョウな肉体 | 3 キキョウな行動をとる |
| 4 | キョウドウで開発する | 5 大会にキョウサンする | 6 物語はカキョウを迎える |
| ク | 1 エイガを誇る | 2 セイエイ部隊 | 3 専守ボウエイ |
| 4 | 名画ジヨウエイ | 5 敵のジンエイを攻める | 6 賛美歌をエイショウする |
| ソ | 1 ユウキュウの昔 | 2 補助金のキュウフ | 3 キュウダイ点を取る |
| 4 | 不要フキウの外出 | 5 真相のキュウメイ | 6 ロウキュウ化した建物 |

問十一

「なぜ、私たちは衣服を着るのだろうか」とあるが、その説明として**適当でないもの**を次の中から一つ選べ。

- 1 物理的な衝撃や化学的な毒物から身体を保護するため。
- 2 環境中の温度変化による急激な体温変化から身を守るため。
- 3 不可逆的な変形を身体に加えることで、自分らしさを表現するため。
- 4 地位や所属などを表現することで、人間関係に枠組みを与えるため。
- 5 個人としての来歴や特性を社会的役割の記号によって中性化するため。
- 6 社会的役割を表象し、一つの言語としてコミュニケーションをとるため。

14

問十二

「ファッションは「^ケ両価的」である」とあるが、その説明として最も**適当**と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 ファッションは、他者から模倣されると新しいスタイルになるということ。
- 2 ファッションは、自分たちの集団を他の集団から区別し差異を際立たせるとのこと。
- 3 ファッションは、その時代の流行を模倣するとともに過去の伝統をも模倣すること。
- 4 ファッションは、一定のライフスタイルや価値観を模倣するとともに違いも示すということ。
- 5 ファッションは、社会的役割を衣服や化粧だけでなく身体変工によっても表現すること。
- 6 ファッションは、環境からの身体保護と社会的役割の表象という二重の働きをするということ。

15

問十三

「ファッションはあまりに軽薄なやり方^セで重厚な生の事実を示す」とあるが、その説明として最も**適当**と思われる

るものを次の中から一つ選べ。

16

- 1 ファッションは共時的模倣であることによって、進歩せず、ただ変化する。
- 2 ファッションは次々と変化するることによって、個人としての特性を生々しく表現する。
- 3 ファッションは新しさを生み出すことで、既存のものを乗り越え、遊戯性を獲得する。
- 4 ファッションは変化を楽しむための変化によって、世界そのものに根拠がないことを示す。
- 5 ファッションは女性的な存在のあり方であることによって、男性的な社会的権威を否定する。
- 6 ファッションは第二の表皮であることによって、身体を保護すると同時に社会的役割を象徴する。

問十四

本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

17

(

17

) の欄に、二カ所マークすること

- 1 化粧は変更可能な身体変工として、身体と衣服の境界を形作る。
- 2 入れ墨や纏足などの身体変工は、社会的役割を恒久的に身につけるために行われてきた。
- 3 現代社会における整形手術、脱毛などの身体変工は、社会的役割の表現媒体という機能を主に担っている。
- 4 ファッションは個性と共同体への同調とを共に追求する矛盾があるため、軽薄な印象を与える。
- 5 ファッションは長い歴史の中で、身体の保護・社会的地位の表現・過去からの逸脱と、定義を変化させた。
- 6 ファッションは時間そのもののように、方向性も進歩もない純粹の変化として既存のものの外部に出ようとする。

〔二〕次の文章を読んで、後の問に答えよ。

社会との境界で不調和を生み出すに至った近代科学は、ソフィアの歴史的展開のうちに、強固な力をもつにいたったシステムである。アリストテレスはソフィアを純粋な個人の知的活動、それ自体として求められる活動であると考えたが、近代西洋科学は複雑かつ巨大な技術と融合した。この科学技術は、個人のもつ能力というよりも、巨大なシステムとして、わたしたちの世界を劇的に改変する力をもった。フランシス・ベーコンのいうように、知が力をもったのである。この力は、たんに世界の真理を認識するだけの力ではなく、知の対象を変化させ、また、わたしたちの生きる環境をも過激に改変する技術とセットになっていた。この科学技術を技術（テクネー）とソフィアの融合^アということで、「近代テクノソフィア^ア」と呼ぶことにしよう。

二十世紀になって自覚された環境問題とは、近代テクノソフィアの働きの結果であった。ただし、この結果は、近代テクノソフィアが目標として達成した結果ではなく、また意図した結果でもなかった。人間は自分の生きる地球環境を破壊しようという意図をもって行為を選択したのではないからである。わたしたちが直面している地球環境問題とは、人間の選択したさまざまな行為による環境の劣化が人間自身の生存のコンカ^イン、すなわち「生命」に対する脅威として現れた、意図せざる結果として生じた出来事である。すなわち、人間は自分の行為が自らの生存を脅かすという結果を生み出しているということ、その結果に直面することによってはじめて知ったのである。

わたしたちが気づいたのは、地球環境に危機が迫っているということだけではなく、この危機をもたらしたのがわたしたち自身の知によるものだったということである。しかも、近代的ソフィアの活動によってもたらされた結果に気づいたのは、二十世紀になってからであり、この結果をもたらした行為の選択を人間が行ったときには、想定していなかったのである。いわば「想定外」の結果である。近代テクノソフィアが想定していなかった事態である。

二〇一一年、四枚のプレートの境界面に蓄積された巨大エネルギーが解放されることによって生じた地震と津波が日本列島を襲^ウい、近代テクノソフィアの成果である原子力発電所を破壊した。この出来事は広大な国土を放射能によって汚染した

だけでなく、大量の放射性物質を大気と海洋にも放出した。

原子力発電に従事^エしていた関係者は、このような事態を「想定外」と語った。このことは重要なことを意味している。近代テクノロジーには想定できなかった事態が存在するということと、それだけでなく、想定外が存在するということが、その行為選択の帰趨^{きすう}のすべてを視野に入れることができないということを近代テクノロジーがみずから認めたということである。帰趨のすべてを視野に入れることができない、すなわち、想定外とすることによって、想定外の現象を「そなえ」の視野の外に置いたソフィアであった。

では、想定外に対する「そなえ」のできる知的能力を人類はもっていないのだろうか。そのようなものがあるとするれば、それはソフィアではなく、進化したフロネーシス^オ（*）であろうが、そのようなフロネーシスの姿をわたしたちはまだ知らない。

科学技術と社会の不調和という事態の認識は、ますますその重要度を高めているが、二十一世紀に入り、課題の広がりや深さは計り知れないものへと変化しつつある。とくに、情報技術がより巨大な影響力をもつに至ったことは重大な変化で、インターネットの発達によって形成された、人間のいわば外部記憶装置としてのグローバルなネットワークは、個人という単位をはるかに超越して、巨大な知的装置として機能するに至っている。

わたしたちはインターネットによって、自分の脳のなかに蓄積されていない知識や情報に手元^カのスマートフォンから直接アクセスできるようになった。いわば、巨大な百科事典や辞典を操作できるようになったのである。意味の分からないことばや、学んだことのない出来事などについても、検索すれば、簡単に情報に接することができる。音声入力によっても操作できるようになり、あたかもスマートフォンが一個の人格であるかのような錯覚に陥ってしまう。

インターネットに入力した情報は、その巨大なネットワークのどこかに蓄積されている。一般的、普遍的な情報も個人データもこのネットワークのどこかにある。

さらに、SNSでは、「書く」という行為も大きくその意味を変えることになった。たとえば、わたしはこの本を書いて
いるが、書き手は自分の考えを文字で表し、それをインクと紙という物質・物体に具体化する。インサツ^ツする人たち、出版

する人たち、販売する人たちの手を経て、購入した人が読んだとき初めて、コミュニケーションが成立する。ただ、このコミュニケーションは一方向である。読み手が書き手にメッセージを伝えるとすれば、本に挟まれた読者カードがあるとき、そのカードを読み手が出版社に送ったときである。どのくらいの読者に書き手の考えが届いたかは、販売された部数によるが、それはあくまで売れた本の数であり、読まれた本の数ではない。

他方、SNSでは、情報の発信は、読み手が閲覧し、「いいね」を返せば、そのメッセージは書き手のもとに戻る。メールで感想を送り返すのも簡単である。情報の受け手は、即座に情報の発信者となって、双方向の情報交換が可能になる。それだけではない。受け手はたちどころに情報を多数の他者へ発信する主体に変化する。情報は簡単に拡散^ハしてゆく。

双方向のコミュニケーションから拡散する情報へと展開する現代の情報環境は、さまざまな観点から「便利」であるが、こうした情報技術には、その裏側にリスクも潜んでいる。その例をいえば、個人へのメールやSNSによる悪意ある書き込みである。あるいは、悪意なく書き込んだものでも、受け取り手によっては悪意を感じてしまうこともある。ネット上の書きことばは、書き手の意図ではなく、読み手の受け取り方によるコミュニケーションである。悪意ある表現、あるいは悪意と受け取れる表現も簡単にやりとりすることができる。受けとった情報は、容易に拡散してゆく。ネット空間は、思いも^コよらない膨大なリスク空間であることをわたしたち一人ひとりが認識しておかなくてはならない。

とくに注目されるのは、インターネットによって簡単に自殺願望をもつ人をキャッチすることもできるようになったことである。自殺は、究極の選択である。自殺願望をもつ人にその手助けをしてしまう、あるいは、手助けをするふりをして、^サキウウチに陥れるなどのこともこうした空間で行われている。みずからの選択の重要性を自覚することなく、選択を実現するための情報の提供によって、思慮を欠いた選択をしてしまうのである。

こうした巨大ネットワークがAIやロボット技術と連動して自律的に機能するようになると、アリストテレスが区分したソフィアとフロネーシスの境界領域に踏み込んでくるようにも見える。人工知能が自律的に判断し、選択することができるようになると、これはこれで一種のフロネーシスのようにも見えるからである。この人工擬似フロネーシスは、グローバルなネットワークのなかで自律的な行為選択の機能をもつことになる、人間の選択にかかわるフロネーシスを簡単に超えて

しまうであろう。この人工擬似フロネーシスを備えた近代テクノソフィアをメガテクノソフィアと呼ぶならば、この知は、巨大ソフィアと融合して、人類の生活環境そのものを選択することも考えられる。しかし、このメガテクノソフィアは、生身の人間ではなく、その環境は生身の人間の生きる環境でもない。いずれにせよ、そのようなメガテクノソフィアという知能、知性が近い将来に出現することは十分予想することができる。

たしかに、このソフィアに選択の能力を与えるかどうかは、人類の選択であるが、人類全体がこの問題について合意を形成することは難しい。だれかが、すなわち、科学者が政治家か起業家かがこの選択をしてしまえば、人類は、このメガテクノソフィアの支配下に置かれる可能性が出てくるであろう。

要するに、自律的メガテクノソフィアが人類にとって最善の選択をするかどうかは、そこにどのような価値のプログラムが書き込まれているかによる。このプログラムをデザインし、また実現のために何を選択するかを決めるのは、近代テクノソフィアではなく、現代にふさわしい人間のフロネーシスでなければならない。それは人類のもっとも重大な選択にかかわる能力である。ソフィアだけをもつ者にこの選択を任せるわけにはいかない。

わたしたちの生きる現実が科学技術の進展によって、そしてまた科学技術を用いた人間の行為の選択によってどのような行く末をもたらすか、その帰趨を正確に予測することはできないであろう。どんな思慮深さをもつても、現代の科学者が「想定外」と呼んだり、自分たちの考えを「神話^シだった」といったりすることがあるということを東日本大震災は教えてくれたのである。だから、わたしたちは、この上なく思慮深くあるべきである。しかも、その思慮深さは、人間^スという存在が抱えている制約に対する自覚を含んでいなければならない。「汝自身^{なんじ}を知れ」というアポロンのことばは、「驕^{おこ}ることなかれ」ということばとともに現代に生きる人間の条件と限界の自覚を促している。

人間の思慮深さの限界を見事に描いたのが、古代ギリシアの有名な悲劇作家、ソフォクレスの『オイディプス王』で、聡明^{そうめい}な選択であつても破局的な結末に至る人間の悲劇を描いている。

最善の選択を繰り返したはずのオイディプスの運命は、知恵の神アポロンのみが知っていた。自分の故郷がコリントスであると思っていた彼は、故郷に帰ることを避けるという選択を行った。その結果、父王と三叉路^{さんさろ}で遭遇して、殺してしまう。

デバイでスフィンクスの謎を解くという選択の結果、母と結婚する。賢い選択の結末が悲劇である。

アポロンが自分自身を知れというのは、神が不死なる存在であるのに対し、人間は死ななければならない存在であるということである。どんなに聡明で思慮深くても有限な生を生きなければならない人間は、選択の帰趨を完全に予測することはできない。「傲慢になることなかれ」とは、そのような意味である。

聡明なオイディプス王は、かれ自身の置かれた悲劇的な状況で選択しなければならなかった。それは、孤独な選択であった。

どんなに聡明であっても、わたしたちは選択を誤ることがある。誤りのない選択のように見えても、わたしたちの思い知ることのできない運命が不幸をもたらすこともある。

オイディプスの悲劇は、人間が選択から逃れることができないという宿命を描いている。オイディプスの選択した行為は、つぎの不運を生み出していった。人間は、どんなに思慮深い選択をしても誤ることがある。人間の命はそのような選択の宿命から逃れることはできないのである。

(桑子敏雄「何のための「教養」か」より)

*ソフィアが「学問的論証能力」の意であるのに対して、フロネーシスは「倫理的能力」「行為にかかわる思慮深さ」の意。

問一 「襲^ウい」とあるが、これとは異なる意味で「襲」が用いられている語句を次の中から一つ選べ。 18

- 1 来襲 2 奇襲 3 夜襲 4 踏襲 5 襲来 6 襲撃

問二 「従事^エしていた」の言い換えとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 19

- 1 おもむいていた 2 くわわっていた 3 したがっていた
4 とどまっていた 5 しがみついていた 6 たずさわっていた

問三

「手元^カ」とあるが、「手」を用いた四字の熟語として、**適当でないもの**を次の中から一つ選べ。

20

- 1 手尾一貫
- 2 手前味噌
- 3 手練手管
- 4 徒手空拳
- 5 眼高手低
- 6 無手勝流

問四

「拡散^ケ」の反対を意味する語句として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

21

- 1 包括
- 2 回収
- 3 凍結
- 4 統括
- 5 凝縮
- 6 縮小

問五

「神話^シだった」とあるが、ここでの「神話」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

22

- 1 夢のようにあてもないことを心に思うこと
- 2 古くから語り伝えられ、伝承されてきた物語
- 3 神々の創造的な出来事や行為によって展開される物語
- 4 根拠もないのに、絶対的なものと考えられている事柄
- 5 世界の事物の起源や存在論的な意味を象徴的に説く物語
- 6 想像の一種で、観念または心像としてあらわれる精神活動

問六

「コンカン^イ」「インサツ^ク」「ヨらない^コ」「キュウチ^サ」の漢字と、同じ漢字を含むものを、次の中から一つ選べ。

23

26

- | | | | |
|---|-------------|-------------|--------------|
| イ | 1 当選のヨカン | 2 動詞のゴカン | 3 コウカンの常識 |
| | 4 手首のケツカン | 5 名刺のコウカン | 6 雑誌のソウカン |
| ク | 1 サツシを閉じる | 2 写真をサツエイする | 3 シンサツを発行する |
| | 4 人事をサツシンする | 5 様子をカンサツする | 6 サツキュウに立ち去る |

問七

「近代テクノソフィア」の説明として、**適当でないもの**を次の中から一つ選べ。27

- | | | | |
|---|--------------|---------------|----------------|
| コ | 1 キソクに従う | 2 腸にキセイする | 3 人生のキロに立つ |
| | 4 カイキ現象に遭遇する | 5 ジョウキをいつした考え | 6 キショウな昆虫を発見する |
| サ | 1 ジキュウジソク | 2 フミンフキュウ | 3 キキュウソンボウ |
| | 4 バンセイフキュウ | 5 キュウシイツシヨウ | 6 テンジヨウムキュウ |

- 1 近代テクノソフィアは「想定外」の事態が存在することを認めている。
- 2 近代テクノソフィアはフロネーシスを備えて、メガテクノソフィアとなる。
- 3 近代テクノソフィアは想定外に対する「そなえ」のできる知的能力ではない。
- 4 近代テクノソフィアは純粋な個人の知的活動が複雑かつ巨大な技術と融合したものである。
- 5 近代テクノソフィアは人類のもっとも重大な選択において、主導的な役割をまかせることができない。
- 6 近代テクノソフィアはその働きが現代の環境問題を生み出しただけでなく、そのことにずっと後まで気づかずにいる。

問八

「フロネーシス^オ」とあるが、「フロネーシス」のあり方について筆者はどのように考えているか。最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。28

- 1 科学技術と社会が不調和な状態にある現代において、フロネーシスは調和を回復するための新たなソフィアとなる。
- 2 優れたソフィアとテクネーを身につけた人間だけが、人類に貢献するような信頼に足るフロネーシスの担い手となる。

問九

3 高度な人工知能が可能にする自律的メガテクノソフィアは、意図せざる結果を可能な限りなくすためのフロネーシスとなる。

4 自律的メガテクノソフィアが人類にとって最善の選択をおこなう価値のプログラムをデザインするためには、フロネーシスが求められる。

5 巨大ネットワークとしての人工知能は自律的な行為選択の機能を備えた擬似フロネーシスとなり、人類の生きる環境に望ましい影響を与える。

6 現代のフロネーシスは、想定外の結果を予測できないという近代テクノソフィアの限界を自覚した上で、行為選択の帰趨すべてを視野に入れる。

「SNSでは、「書く」という行為も大きくその意味を変えることになった」とあるが、その説明として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。29

1 SNSではネットワーク上に蓄積された多くの情報を使って自分の考えを容易に書くことができるようになる。

2 SNSでは双方向のコミュニケーションは成立し難く、読み手の意図が優先されるため悪意ある表現が簡単に拡散する。

3 SNSでは書き言葉が物質に具体化されず、読み手の反応が物質に具体化されることでコミュニケーションが成立する。

4 SNSでは読み手がネガティブな解釈をしやすいため、書くという自らの選択の重要性を自覚しないまま錯覚に陥ってしまう。

5 SNSでは「いいね」やメールを返すことで双方向のコミュニケーションが成立するため、書き手と読み手が共同で情報を作り上げることができる。

問十

- 6 SNSでは書き手の意図ではなく、読み手の受け取り方がコミュニケーションの中心となり、読み手が情報を発信する主体となることで容易に情報が拡散する。

「人間という存在が抱えている制約」とあるが、それはどのようなことか。具体例として**適当でないもの**を次の中から一つ選べ。 30

- 1 いかに絶望的な状況でも、選択を強いられる。
- 2 神が不死なのに対し、人間の生は有限である。
- 3 選択の結果を正確に予測することはできない。
- 4 どんなに思慮深くても、選択を誤ることがある。
- 5 目標や意図と異なる事態に自らを追い込みかねない。
- 6 ネットワークに蓄積された情報量が、個人の記憶力を超越する。

問十一

本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。 31 (31 の欄に、二カ所マークすること)

- 1 メガテクノソフィアは、人間の自覚できない選択の帰趨を予測することができる。
- 2 メガテクノソフィアが自律的に機能するなら、オイディプスの悲劇は避けられた。
- 3 メガテクノソフィアは、アリストテレスによるソフィアとフロネーシスの境界領域に踏み込むことになる。
- 4 近代科学は、巨大なシステムとしての力を持つことで人間の生存をも脅かす力を持った。
- 5 近代科学は、「想定外」に直面するという事態を通じて、飛躍的に発達したものである。
- 6 近代科学は、地球環境の破壊を克服するための技術として、ますます重要度を高めている。

国語 解答

大問一		解答
問一	1	③
問二	2	③
問三	3	①
問四	4	④
問五	5	④
問六	6	⑥
問七	7	③
問八	8	⑤
問九	9	④
問十	イ	①
	キ	③
	ク	③
	ソ	⑥
問十一	14	③
問十二	15	④
問十三	16	④
問十四	17	②
		⑥

大問二		解答
問一	18	④
問二	19	⑥
問三	20	①
問四	21	⑤
問五	22	④
問六	イ	②
	ク	④
	コ	②
	サ	⑥
問七	27	②
問八	28	④
問九	29	⑥
問十	30	⑥
問十一	31	③
		④